

注 意 報

8 病 第 19 号
令和 8 年 7 月 30 日

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり、発表しましたので送付します。



病虫害発生予察注意報第 4 号

- 1 作物名 **チャ**
- 2 病虫害名 **チャノコカクモンハマキ**
- 3 発生地域 **府内全域**
- 4 発生時期 **4 月上旬～11 月**
- 5 発 生 量 **平年比多い**

6 注意報発令の根拠

- (1) 7 月中旬に行った巡回調査の結果、山城で 1 m²あたりの綴葉数は 5.0 (平年比多い)、1 m²あたりの幼虫・蛹の合計数は 1.3 頭 (平年比多い)、発生ほ場率は 33.3% (平年比やや多い)、丹波で 1 m²あたりの綴葉数は 24.0 (平年比多い)、1 m²あたりの幼虫・蛹の合計数は 6.0 頭 (平年比多い)、発生ほ場率は 66.7% (平年比やや多い)、丹後で 1 m²あたりの綴葉数は 1.0 (平年比多い)、1 m²あたりの幼虫・蛹の合計数は 0.5 頭 (平年比多い)、発生ほ場率は 50.0% (平年比多い) であった (表 1)

表 1 令和 8 年 7 月中旬現在のチャノコカクモンハマキの発生量

地域	項目	本年	平年値
山城	綴葉数 (m ² 当たり)	5.0	0.7
	幼虫・蛹数 (m ² 当たり)	1.3	0.3
	発生ほ場率 (%)	33.3	19.1
丹波	綴葉数 (m ² 当たり)	24.0	2.9
	幼虫・蛹数 (m ² 当たり)	6.0	1.4
	発生ほ場率 (%)	66.7	30.8
丹後	綴葉数 (m ² 当たり)	1.0	0.2
	幼虫・蛹数 (m ² 当たり)	0.5	0.1
	発生ほ場率 (%)	50.0	10.8

調査日：令和 8 年 7 月 14 日～16 日

(2) フェロモントラップへの誘殺数は宇治市及び京丹後市で平年並、綾部市で例年比やや多い(図1)。

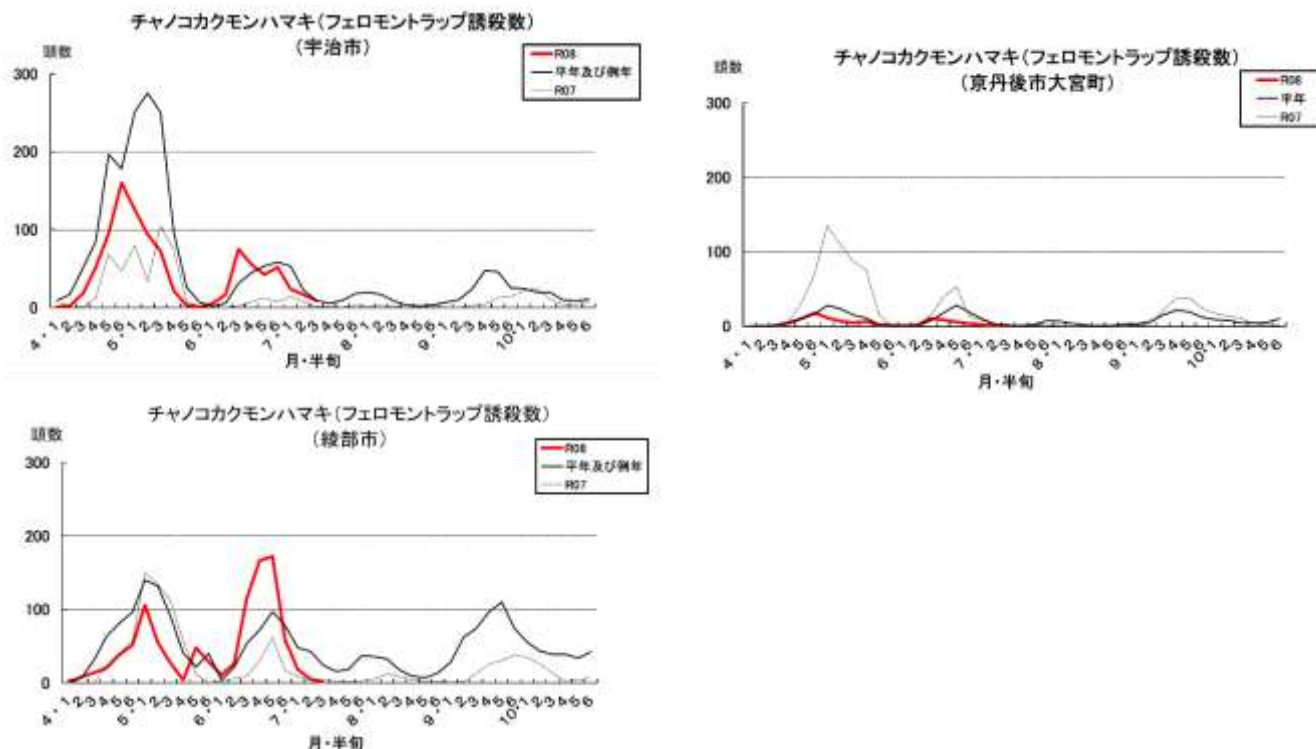


図1 フェロモントラップへの誘殺状況(チャノコカクモンハマキ)

7 防除適期

(1) フェロモントラップへの誘殺盛期は宇治市及び京丹後市で平年比早く、綾部市で例年比やや早い。

・防除適期

- 山城：7月第5半旬～8月第1半旬（平年比早い）
- 丹波：8月第1半旬～8月第3半旬（例年比やや早い）
- 丹後：7月第5半旬～8月第1半旬（平年比早い）

8 発生生態及び防除上の注意事項

- (1) 通常、年4回世代を繰り返す、第2世代成虫が7月下旬～8月上中旬に発生し産卵する。
- (2) ふ化した幼虫は成長すると、葉を綴って食害するようになり、薬剤がかかりにくくなるので、ふ化直後の若齢幼虫期の防除が効果的である。
- (3) ジアミド系及び IGR 剤などの薬剤の効果が低下している地域があるので、これらの薬剤の効果が低いと感じられる場合は、同系統薬剤の連用を避ける。
- (4) 晩夏から秋の世代の防除が特に重要である。十分な効果を得るため、ほ場をよく確認し、必要に応じて複数回防除を実施する。
- (5) 秋てん茶等を出荷する場合は、収穫前日数に注意する。
- (6) 秋期に発生した幼虫が綴った葉の中で越冬して翌春の発生源となるため、防除を徹底する。

*大変暑い日が続いているため、**農薬散布の際には暑熱対策を徹底し、熱中症の予防に努める。**



(写真1)チャノコクモンハマキ：雌成虫 (写真2)チャノコクモンハマキ：雄成虫 (写真3)チャノコクモンハマキ：幼虫



(写真4)チャノコクモンハマキ：被害葉（新芽）

(写真5)チャノコクモンハマキ：被害葉（古葉）



(写真6)チャノコクモンハマキ：卵塊及び若齢幼虫

注) 写真は京都府茶業研究所提供